

歌舞伎ソムリエ おくだ健太郎の

松竹大歌舞伎

徹底解説

イラスト おくだ健太郎
イラスト 瓜谷西



晴れがましい父と子の襲名披露公演

ことしの春日井の歌舞伎公演は、二代目松本白鶴、十代目松本幸四郎の、襲名披露の公演となりました。父・白鶴と子息・幸四郎の、高麗屋父子の晴れがましい舞台。そして幸四郎の子息も、今回の巡業には参加しませんが、八代目市川染五郎の襲名をはたしています。一家の三代にわたる慶事です。まず、襲名披露の「口上」をご覧・お聞きいただきます。芸の道の大きな節目における、さわやかな決意表明。客席との一体感で、より温かい、精気あふれるひとときとなりますよう、盛大なエールでお二人を迎えて下さいね。



引窓を巧みに使った切ない家族の物語

幕間をはさんで、「引窓」という演目。白鶴・幸四郎の襲名父子共演の一幕です。引窓とは、縄を引っぱって開閉する明かりとりの天窓のこと。このお話の舞台となっている、京都と大阪の間にある八幡の里は、地形の関係などで日影が多く、引窓のある家がじつさいに沢山あったそうです。



出演者



幸四郎と猿之助が魅せる！男と女の怪談舞踊
そして、公演のさいごを飾るのは、「かさね」という、おどろおどろしさと色恋とが一体になった、怪談じたての舞踊劇です。新・幸四郎とは数々の共演を重ねてきた市川猿之助が、今回も華を添えます。暗い影をやどす侍・与右衛門（幸四郎）は、深い仲の腰元・かさね（猿之助）を振り捨てるように、武家を逃れ出しましたが、すがりつくような思いを胸に、かさねが追ってきます。さりとして、訪ね行くあてもなし……失意の二人が、夜ふけの川べりで、このまま死んでしまおうか、と立ち尽くす、その時……。何処からともなく、ぶかぶかと流れてきたのは、鎌の刺さったドクロと、一本の卒塔婆。川から拾い上げた与右衛門、記された死人の名を確かめた瞬間、「……！」と顔色が変わります。じつは与右衛門、かつてかさねの母とも情を交わし、父を鎌で惨殺していたのです……。闇の中であばかれていく、男と女の情念のすさまじさ。清元という高い音域を活かした音楽ともども、ご堪能くださいませ。

7/26(金)人数限定
大人気企画!

今年もやります!
歌舞伎公演当日
おくだ健太郎さんの直前解説!



昼の部の前に!
水徳特製
歌舞伎弁当付き解説
10:30-11:30
@文化フォーラム春日井・会議室



夕方の部の前に!
特撰スイーツ付き解説
15:00-16:00
@文化フォーラム春日井・会議室
※弁当・スイーツの写真は昨年のものです。

[予約方法] 6/12(金)10:00～、お電話のみの受付となります。いずれも定員は60名。

☎0568-85-6868

昼の部・夕方の部
ともに完売御礼!!



松竹大歌舞伎
高麗屋親子2代襲名披露公演
7/26(金)12:00-16:30 @春日井市民会館